

J R 東日本労働組合

N A G A N O

E-mail naga-30-naga@hotmail.co.jp



2023年 7月 4日 No. 488

JR東日本労働組合

長野地方本部

発行者：臼井幸一

編集：情宣部

夏季手当に対して様々な声をいただき、ありがとうございました！



6月7日に夏季手当の会社回答が出て以降も、様々な声が寄せられました！

- ・社員数が減っているなかで労力は以前の倍になっている。もっと還元しても良いのではないか。
- ・会社は先が不透明と言うけど、先を見れる人って本社にいるのか？いい加減言い訳として不透明とか言わないで欲しい。
- ・昨年度の目標は通期での黒字化、その目標を達成したのだから会社は満額での回答をして欲しい。
- ・業績が上がっている時に上げないで、いつ上げるのか。2.5ヶ月+50,000円は少なすぎる。
- ・基本給だけでは厳しい。手当で何とか生活できている印象がある。組合の要求を見た。強気な感想を持つが、黒字になったのだから、そのくらいはあって良いと思う。
- ・今回の回答はガッカリした。黒字を目指して色々頑張ってきた実感がある状況で、黒字を達成したならしっかり社員が納得できる回答にして欲しかった。物価高の影響でボーナスが貯蓄に全く回らない。追加支給獲得に向けて頑張りたい。
- ・今回の回答にはガッカリした。春闘でそれなりの賃上げをしたのなら、ボーナスもコロナ前の水準にするべき。最高益でもなんくせつけて上げないのだから、今の物価上昇時に上げなくてどうするという気持ち。年間人件費の減少でみたら、今回さらなる増額でも大丈夫だと思う。むしろモチベーションを高める視点ならあってしかるべき。
- ・一部の上乗せ(成績率の増額)を無しにして、その分をみんなに分けて増加額して欲しい。みんな頑張っている。
- ・相互、企画と役割を持たされて負担を感じる。乗務していない日が多く、手当が減った。ボーナス5%上げられても納得出来ない。人件費を削っている分、ボーナスを上げて良いのでは？
- ・組合が弱いとやっぱりダメ。ボーナスが少ない。

まだまだ様々な声がありましたが、一部を抜粋して掲載しました。夏季手当の結果に皆さん様々な思いがあると思いますが、コロナ禍前に比べると手当の支給額は少なく、物価上昇により苦しい生活実態があるのに手当はあまり上がらず、一人ひとりの業務の負担は増えているのに給料は増えていないのが実態です。

東日本ユニオンは期末手当の支給水準「年間最低6ヶ月以上」を目指します！全社員の声で期末手当のたたかいをつくり出していきましょう！

夏季手当に対する不満を会社にしっかりとぶつけていこう！